

韓国交流のあゆみ

(2) 地域に開かれた学校，鳴浜小学校

鳴浜小学校を仮面劇の会場にしようという決断には大きな意味がありました。学校と地域の関わりについて強いポリシーと、PTA会員の協力があって、初めて実現できたことです。

以来、鳴浜小学校を地域の文化センターとして位置づけ、地域の諸行事に積極的に学校を開放してきました。学校を単なる教育の場としてではなく、地域の文化活動の中心として位置付ける、「開かれた学校」の考え方はよく目にするスローガンです。「開かれた学校」を実践している例ととらえています。

学校側の日韓交流に対する深い理解と、子供たちの韓国との出会いに対しての強い関心があり、学ぶだけではなく、豊かな地域のなかでこそ健やかに育つことが出来るのだという共通理解の元で行われた文化交流での、学校と当時のPTA役員を中心とした地域の人々との協力関係は、地域と学校のかかわりの好例だと思います。

このような地域と学校の関係は、現在の鳴浜小学校にも引き継がれており、一つの伝統として定着しています。

この文化交流を通じて、さまざまな人たちが鳴浜小学校の日韓交流に協力してくださいました。その中でも、鳴浜小学校にとってたいへん幸運であったのは、文化交流の通訳として活躍された土屋春美さんとの出会いです。韓国から嫁いでこられて隣の東金市にお住まいの土屋さんに、学校のゆとりの時間（現在は総合的な学習の時間）を利用して、子供たちにハングルを教えてほしいという中村先生の申し入れを土屋さんが承諾され、5年生と6年生が週1回ずつハングルを学習することになりました。子供たちはたいへん興味を以ってハングルに取り組みました。子供たちはハングルの学習を通じて、土屋さんから韓国の生活や文化について教えていただき、それを家庭に持ち帰ります。そのうちに、わたしは子供からハングルを習っていますという保護者がでてくるなど鳴浜地区での韓国への興味と理解は急速に深まってゆきました。